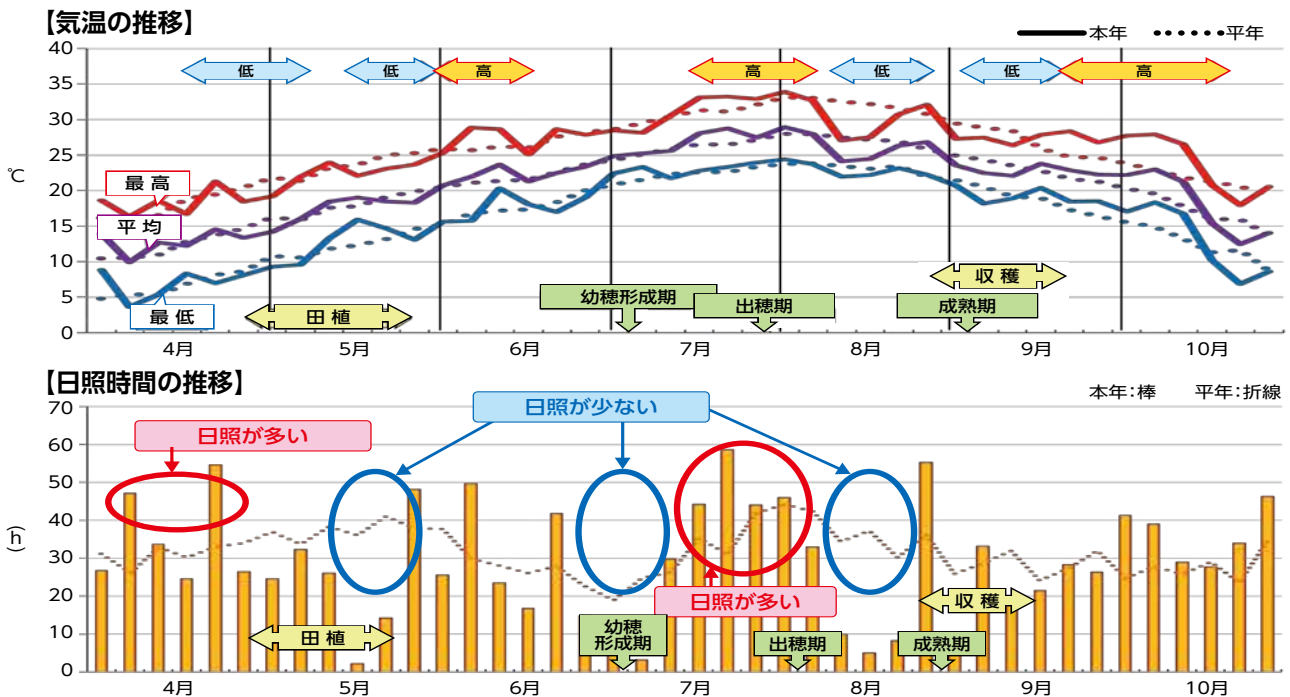




令和3年 水稻の生育と品質概要について

生育ステージ	概要
育苗期	育苗期の気温は平年並で生育は順調に進みました。しかし、4月下旬に日照時間が長く寒暖差が大きい時期があったため、高温障害や苗立枯病の発生が見られました。
移植期～ 分けつ期	連休移植では、低温や日照時間が少なかったことから活着や分けつが遅れました。5月後半が多雨となったため、深水管理による分けつの遅れもありました。5月下旬移植では、6月前半の気温が平年並から高く推移し、活着や分けつの発生は良好になりました。
幼穂形成期～ 出穂期	6月の気温が平年並より高く推移し日照が確保されたため、遅れていた生育はやや回復し、幼穂形成期は、「みずかがみ」ではやや遅く、「コシヒカリ」では平年並となりました。7月中下旬は高温で日照時間が長かったため生育は順調に進み、茎数は平年並～やや少ない程度まで回復しました。出穂期は平年並となり5月下旬移植「コシヒカリ」では、出穂時期(8月上旬)に低温・低日照となり、一部のほ場では穂いもちが発生しました。
登熟期～ 収穫期	早生品種の登熟期間は低温・低日照に推移したため、登熟日数は34日程度と平年並～やや長くなりました。収穫は断続的な降雨の影響で遅れ気味となりました。収量については、分けつ期の低温・低日照の影響で穂数もやや少なく推移しましたが、平年並みの収量となりました。品質については、「コシヒカリ」の1等比率が72.4%となり、登熟期の低温・低日照による未熟粒・乳心白粒などの発生による品質の低下が見受けられました。

■令和3年 稲作期間半旬別気象表 (虎姫アメダスより)



令和4年度 重点技術対策

- ① 土壌pHに応じた土づくり資材の施用。
- ② 細植、植付深3cm、苗の活着まで、および低温時は、やや深水管理とする。
- ③ 活着後、浅水管理により昼間の水温を高め、分けつを促す。
- ④ 田植後2週間で還元障害の有無を確認する。
- ⑤ 中干し前に自然減水で、土の中に酸素を取り込む事による還元障害の防止。
- ⑥ 茎数が目標茎数の8割になったら、中干しを行う。
- ⑦ 高温時における登熟期の栄養不足を回避するため、穂肥は適期に適量を施用する。
- ⑧ 出穂前後各3週間は常時湛水とし、収穫5日前まで間断かんがいをを行う。
- ⑨ 適期収穫の励行と適正な乾燥調製により、品質を確保する。
- ⑩ 水稻収穫後、土づくり資材を散布し、秋耕はすぐに行う。(有機物を深くすきこまない。浅く耕す)